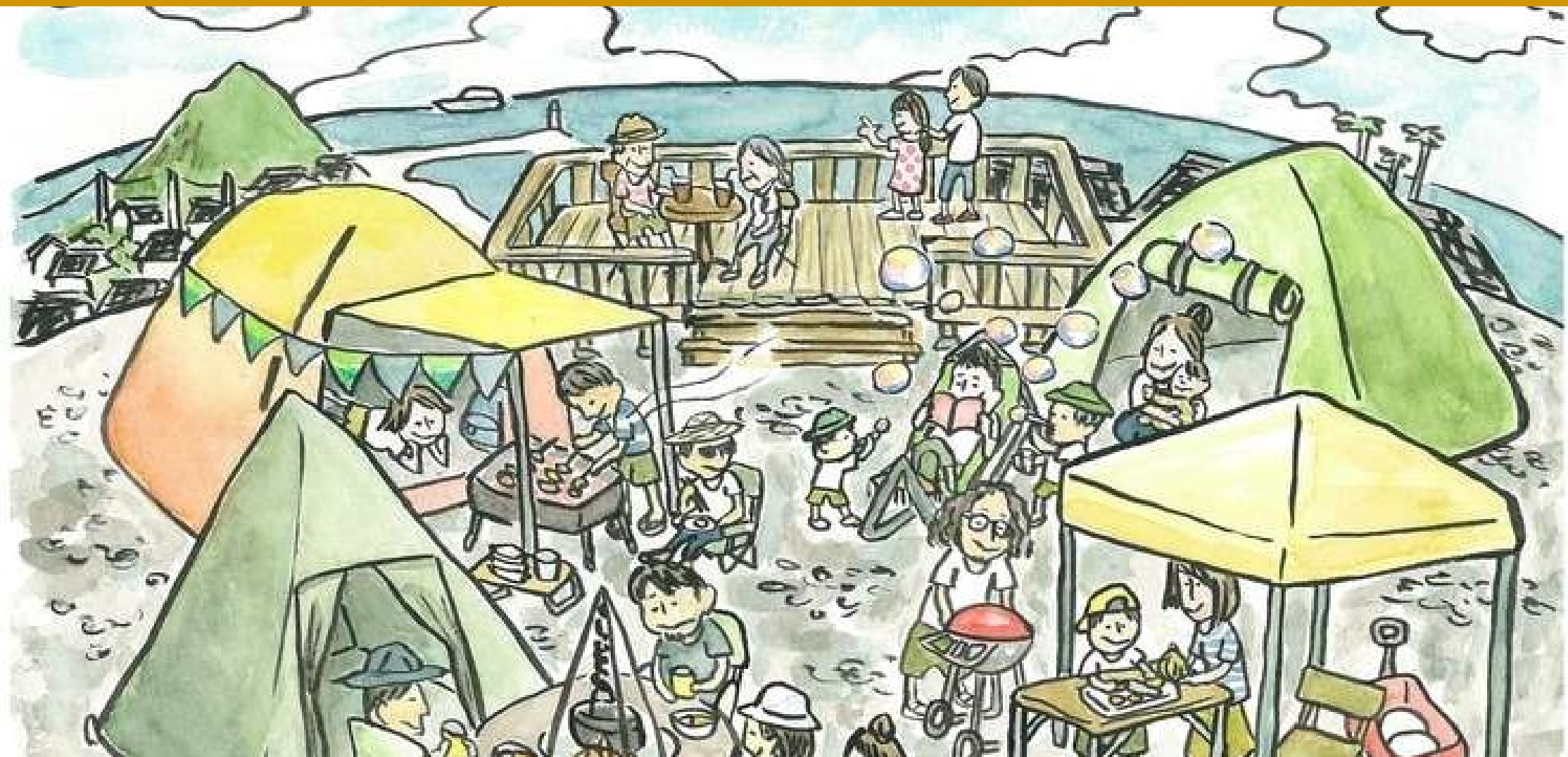


笑って，ソナえて！



1. 課題背景

—— 課題提出 ——

背景① 災害の多発

1999年 2000年 2001年 2002年 2003年 2004年 2005年 2006年 2007年 2008年 2009年 2010年 2011年 2012年 2013年 2014年 2015年 **2016年** 2017年 2018年 2019年 2020年 2021年



参考：社団法人全国治水砂防協会

最多10個の台風が上陸
新潟県中越地震



参考：土木学会「平成18年豪雪」について

東日本大震災



参考：熊本素材写真アーカイブズ

九州北部豪雨

令和元年東日本台風

令和2年熊本県南豪雨

令和3年伊豆山土砂災害



参考：国土交通省北陸地方整備局



参考：国土交通省「特集 東日本大震災」



参考：熊本素材写真アーカイブズ



参考：静岡県公式HP

1人1人がいつ起こりうるかわからない災害に関して、“自分ごと”として考えていくことが重要

背景② 災害に備え続ける姿勢

事前復興

- ①被災後に進める復興対策の手順や進め方を事前に講じておく。
→地域防災計画の復興対策への位置付け
- ②復興における将来目標像を事前に検討し、共有しておく
→都市マス、長期総合計画に位置付け

+

- ③被災後の復興事業の困難さを考えると、事前に復興まちづくりを実現し、
災害に強いまちにしておくこと
災害に備える・今の時点から未来を見る・生涯学習に生かせる



復興準備 + 減災の促進・上乗せ

③ 記憶の継承における課題

熊本日日新聞アンケート

2020年12月意識調査では、約7割の方が『熊本地震の記憶や教訓を忘れがちになっている』と回答されている。地震の記憶が風化していると感じている人が全体の6割を超えた一方、被害が大きかった益城町や南阿蘇村などでは5割未満である。



災害の被害状況において、地域間における差が生じている



しかし、

いつ、起こりうるかわかならぬ災害に対して常に“自分ごと”として考えることは難しい

中心課題・目的

背景

- ①災害の多発 ②災害に備え続ける姿勢 ③記憶の継承における課題

中心課題：防災訓練や災害への備えを日常的に取り組むには、ハードルが高い
→課題解決には、災害に備える心理的側面と活動の持続性における
2つのソフト面が重要となってくる



目的

手に取ってもらいやすい防災コンテンツの確立

- ・ 防災訓練の要素を残しつつ、参加者が楽しめるもの
- ・ 誰もが参加しやすい防災コンテンツの提供

2. 課題解決

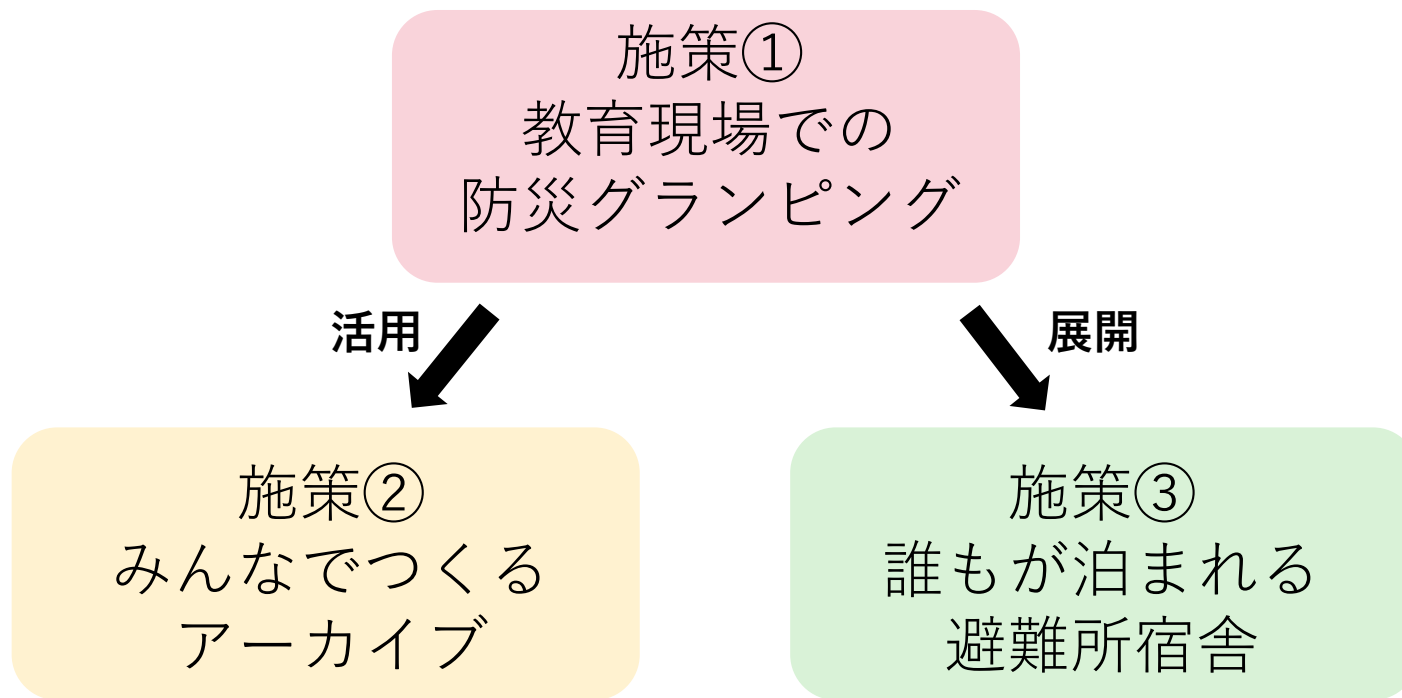
—— 提言政策 ——

政策提案の概要

政策名：笑ってソナえて

コンセプト：楽しく学び，備え続ける

対象地：熊本県内の各自治体



施策①教育現場での防災グランピング 概要・説明

■防災グランピング概要

備
える



使
う

計画・準備

当日

教員の避難所運営人材としての育成
避難所運営備品の揃え
備蓄（非常用食品）の揃え



宿泊体験プログラム



宿泊体験プログラムの詳細

当日スケジュール

- 夕方
- 15時だよ、全員集合！
 - 防災講話「防災ってなに？」
避難所運営ゲーム「避難所を完成させよ！」
 - すみかを作ってみよう！
 - ・ダンボール仕切り
 - ・寝袋
- 夜
- 美味しくできるかな？炊き出し体験
 - 就寝
-
- 翌朝
- 起床
 - 意外と美味しい？非常食を食べてみよう！
 - 実際はどうなの？被災者との会話
- 昼
- お家に帰ろう



空間体験

寝心地を
確認中



配食・
試食・消毒

暖かいスープは
好評



ケアと
支え合い

ゴミ袋で作る
耐寒パジャマ



情報活用

たくさん意見が
出ました

長野県 男女共同参画センター

<https://www.pref.nagano.lg.jp/aitopia/tosho/documents/2611hinanjanpanf.pdf>

施策①防災現場での防災グランピング メリット

①楽しく学べる

避難訓練のように、形式的な防災の学びが多い中、この施策は子供達**自ら考え、仲間とともに作り上げる体験活動**となっている。自主性を活かせるプログラムであり、楽しく学べる。



②避難所運営の人材育成

緊急時における避難所開設の立ち上がりをサポートできるような人材が育成できる。



③ローリングストックの確立

ローリングストックとは、日常的に非常食を食べて、食べたなら買い足すという行為を繰り返し、常に新しい非常食を備蓄する方法。

避難所宿泊体験で使い、使った分だけ買い足すという循環を施すことで、食材の期限切れや不備を防止する。また、ストック数の確認にもつながる。



施策② みんなで作るアーカイブ事例

■概要

被災経験のある地域の人のお話を聞き、記録・内容のアウトプットを行う

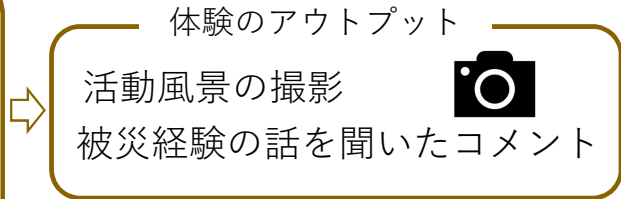
■内容

利用者が被災経験のある地域の人のお話を聞き、その感想や記録を残し、ポスターなどで記録を残す

グランピングの利用者



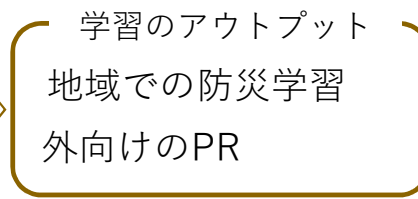
防災グランピング体験



体験した小中学生



写真やコメントをもとに
ポスターを作成



ポスター作成



施策② みんなで作るアーカイブ事例

■ 事例

サントリー水の国くまもと応援プロジェクト

■ 概要

熊本地震から5年がたった被災地域で記憶継承を行う

■ プログラム

被災経験のある方に当時の様子をヒアリング

被災当時の経験を一言で表してもらい
写真を撮り、ポスター等で発表

学校、地域などで掲載し、話題作りの
きっかけとして活用する

防災グランピングのフィードバックとして行う
熊本県の市町村への波及



例) ポスター作成の事例

施策② みんなで作るアーカイブ事例

■地域の「笑本」

- ・ 1 ページに、ひとつの質問
- ・ 毎回1ページ分ずつ追加される
- ・ みんなで書き込んでいくため、複数の文字や絵で埋まっていく
- ・ 回ってきたら、ページを見てみんなの考えや現状から学ぶ自分の考えを描く
- ・ 震災・防災・住まう地域について記憶や思い出の共有ができる

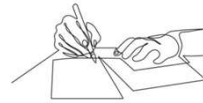
▶ 防災グランピングでの体験時の思い出の共有

今の気持ちはどんな色ですか？
どんな感情ですか？

Taka:黄色。明日の発表がわくわく

Mura:水色
(プロジェクトテーマの色だから)

Iwashita:黄緑。忙しさが落ち着いて穏やかな気持ち



困ったとき、相談できる人はいましたか？
それは、誰ですか？

Taka:YES.

Mura:います。家族や友人

Iwashita: 家族・他県に住んでいる親戚



あなたが日常で感じる
魅力はなんですか？

Taka:白川の河川敷

Mura:熊本城など歴史的価値のあるもの

Iwashita:城下町の景観が残されつつ、新しく創り変えられる活動が多いこと



施策③の概要 ターゲット・ビジネス

■概要

民間活用による防災グランピングの展開

■内容



ターゲット
運営方法
具体的内容

町内外の個人/団体（研修利用団体）

指定管理者制度,PFI等を用いた民間活用

個人：避難所生活におけるアイテムを使用した寝泊まり体験ができる簡易的宿泊施設
団体：避難所生活におけるロールプレイや住民との交流等のプログラムを織り交ぜた、
プログラム体験宿泊施設

- ✓ 防災研修としての需要を取り込むことができる
- ✓ 被災地域の宿泊体験という、新たな価値を創出できる

未来図

県内の各地域に発信！

持続可能なプログラムになれるように！

伝える・備えることの
ハードルを下げる

新たな防災政策としてまち
の元気さにつながる提案

大きな未来

小さな未来

今回の提案で
得られるもの

- ・ 持続的な防災訓練の場
- ・ 多世代のつながる場
- ・ アーカイブの活用